

科目名	相談援助実習指導Ⅱ						
科目名(英)							
単位数	3単位	時間数	46時間	担当者	大川亜由美		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員担当科目	○		
対象学科・学年	福祉心理学科 2年						
授業概要	相談援助に関わる知識と技術について具体的に理解し、実践的な技術を習得する。実際に実習を行う事業所についての理解を深め、実習を通し社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習: △	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				実習の目標としくみを理解し、実習施設に関する事前学習の成果を実習指導者へ説明できる。	
	○	○				実習計画書を実習指導者へ説明できる。	
	○	○				利用者の生活を支援する社会福祉士の役割と事業所の役割・機能を説明できる。	
	○	○				利用者との関係性、多職種連携について説明できる。	
○	○		○		実習を振り返り、ソーシャルワーカーとしての学びと今後の課題を説明できる。		
テキスト・教材参考図書	テキスト「相談援助実習 ソーシャルワークを学ぶ人のための実習テキスト」、プリント等適宜						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	実習までのスケジュール確認・実習先発表			相談援助実習指導Ⅰを復習しておくこと		
	2	学生調査票作成			1年後期実習指導Ⅰ該当範囲を復習しておくこと		
	3	春休み期間中のボランティア実習振り返り			ボランティア報告書を事前に提出すること		
	4	学生調査票清書、出勤簿、評価表、誓約書等の書類作成			実習先の概要を事前に調べておくこと		
	5	実習施設について調べ学習・施設概要まとめ			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	6	実習計画書についての講義			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	7	実習計画書作成			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	8	実習前面接・事前オリエンテーションについての説明			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	9	実習前面接・事前オリエンテーション準備			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	10	記録の理解① 実習記録の目的と、日誌の提出方法			実習先へ持参する書類を確認しておくこと		
	11	実習前面接(学内面接)			面接後、振り返りシートを各自作成・提出すること		
	12	事前オリエンテーション(実習先訪問)			「オリエンテーションを終えて」を作成すること		
	13	記録の理解② 日々の目標設定、実習内容の記録方法について			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	14	記録の理解③ 考察及び所感の書き方について			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	15	A日程直前指導(実習における個人情報保護について)			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	16	A日程振り返り、お礼状作成			A日程振り返りシートを作成しておくこと		
	17	A日程報告会			実習係は報告会の司会進行を担当		
	18	プロセスレコードの活用について			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	19	特別講演:実習の概要、具体的なプログラム、実習生に期待すること			事前配布資料を確認しておくこと		
	20	特別講演:実習の概要、具体的なプログラム、実習生に期待すること			事前配布資料を確認しておくこと		
	21	アセスメントシートの作成方法			事前に配布する事例を読んでおくこと		
	22	アセスメント結果に基づいた支援目標・支援計画の策定方法について			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	23	B日程の実習帰校日、実習終了後の流れについて			各巡回担当教員とスケジュール確認を行うこと		
24	実習帰校日			実習日誌と中間振り返りシートを記入しておくこと			
評価方法	(1)授業の中で確認テストを実施する。(2)宿題・レポートを数回実施する。(3)実習前面接を実施する。(4)実習報告会を実施する。以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	宿題提出	◎	○		◎		40%
	確認テスト	◎	◎				20%
	実習前面接		○		◎		10%
	レポート	○	◎				10%
実習報告会	○	◎		○		20%	
履修上の注意	出席が16回に満たない場合、相談援助実習を実施することができない。 本科目がD評価の場合、社会福祉士の受験資格取得不可となる。						

科目名	社会理論と社会システム						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	松澤秀樹		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	福祉心理学科2年						
授業概要	人と社会の関係や社会システムを理解し、現代社会の様相を捉える。また、種々の社会問題について理解する。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○					現代の社会システムについて理解する。	
	○					現代の社会で起こっている課題について考察できるようになる。	
テキスト・教材 参考図書	新・社会福祉士養成講座3 社会理論と社会システム						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	社会学とは			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	2	家族の社会学			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	3	生活と社会			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	4	社会変動			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	5	人口と社会			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	6	コミュニティとは			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	7	社会システム(1)			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	8	社会システム(2)			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	9	社会的行為と社会的役割			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	10	社会集団と組織			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	11	社会関係資本と社会連帯			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	12	社会問題の理解			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	13	日本社会と社会問題			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	14	共生社会と権利			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
15	社会学について(全体まとめ)			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと			
評価方法	定期試験(筆記)を実施する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	○	○				100%
	小テスト						
	宿題・レポート						
	発表・作品						
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	相談援助の理論と方法 I						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	30	担当者	椋原弘司		
実施年度	2019	実施時期	通年	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	福祉心理科 2年						
授業概要	地域を基盤としたソーシャルワークの担い手としての実践力の高い社会福祉士養成を目指して、以下の5項目のねらい -①相談援助における人と環境との交互作用に関する理論について理解させる、②相談援助の対象と様々な実践モデルについて理解させる、③相談援助の過程とそれに係る知識と技術(介護保険法による介護予防サービス計画、居宅サービス計画や施設サービス計画及び障害者総合支援法によるサービス利用計画を含む)について理解させる、④相談援助における事例分析の意義・方法について理解させる、⑤相談援助の実際(権利擁護活動を含む)について理解させる。のうち、この講義では主に②及び③について講義をすすめていく。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	◎	○		○		相談援助の対象と様々な実践モデルについて説明できる。	
	◎	○		○		相談援助の過程についての知識を説明できる。	
◎	○		○		相談援助の過程における技術を使用することができる。		
テキスト・教材 参考図書	「ソーシャルワークの理論と方法」I (株ミネルヴァ書房)						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	「ソーシャルワークの理論と方法」とは何か -ソーシャルワーカーに求められる専門性			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	2	地域を基盤としたソーシャルワークの視点 -ソーシャルワークにおける「地域基盤」の意味内容(アウトリーチを含む)			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	3	相談援助過程(導入期) -意義・定義・目的と基本的視点、課題及び留意点			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	4	相談援助過程(アセスメント) -意義・定義・目的と基本的視点			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	5	相談援助過程(アセスメント) -情報収集の原則と内容			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	6	相談援助過程(アセスメント) -[演習] 情報収集ツールの理解と実際の利用			教科書の該当範囲、配布資料を事前に読んでおくこと		
	7	相談援助過程(アセスメント) -ニーズの定義とその捉え方			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	8	相談援助過程(支援計画の作成) -意義・定義・目的、枠組みと展開			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	9	相談援助過程(支援計画の実施(モニタリング)) -意義・定義・目的、枠組みと展開			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	10	相談援助過程(評価) -意義・定義・目的、方法・留意点			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	11	相談援助過程(終結) -意義・定義・目的、方法・留意点			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	12	相談援助におけるクライアント理解の方法 -治療モデル			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	13	相談援助におけるクライアント理解の方法 -生活モデル			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	14	相談援助におけるクライアント理解の方法 -ストレスモデル			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
15	前期(第1回～第14回)講義内容のまとめ及び当該範囲の復習小テスト			教科書の該当範囲の復習をしておくこと			
評価方法	(1)定期試験(前期・後期一筆記試験)を実施する。(2)授業中に小テストを2回実施する。(3)事例検討・発表を4回実施する。成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	○				80%
	小テスト	◎	○				10%
	発表(演習成果発表)	○	◎		○		10%
履修上の注意	出席が2/3に満たない場合は科目履修認定を行わない。						

科目名	高齢者に対する支援と介護保険制度Ⅱ						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	大坪秀生		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	福祉心理科 2年						
授業概要	1年生で学んだ少子高齢社会の実情やそこにかかわる福祉専門職としての心構えを基礎に、高齢者施設実習を視野に入れ、より具体的な学びへつなげる。各論というべき介護保険制度について、その理念や成り立ち・介護認定やサービス種類を知り、ケアプラン作成のプロセスや概念を学ぶことで、他科目の理解へとつなげていく。また、終末期ケアや権利擁護等、社会福祉士・精神保健福祉士の専門領域について意識することで、人や命の尊さを再確認する。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○		○		介護保険制度の成り立ちや実情を知り、考えや意見を述べることができる。	
	○	○		○	○	生活の豊かさや平和について考え、相手の立場に立つ・尊厳の保持を意識して過ごすことができる。	
	○	○		○	○	高齢者が生きてきた時代を知り、その内容を今後の実習に活かせるようになる。	
	○	○		○	○	命の尊さや人権について学び・考え・行動することができる。	
	○		○	○		実習への心構えができる。	
テキスト・教材 参考図書	◎『よくわかる高齢者福祉』 直井道子・中野いく子 編 ミネルヴァ書房 ○時事話題 ○介護保険関係資料						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	オリエンテーション・アンケート記入			この科目の注意事項を伝えます		
	2	高齢者の支援について 事例検討			ニュース・新聞等で自治情勢を知る		
	3	現場で使用する専門用語 実習前に			ニュース・新聞等で自治情勢を知る		
	4	GWの過ごし方 母の日に向けて			ニュース・新聞等で自治情勢を知る		
	5	介護保険制度のしくみ その1 制度の概要			ニュース・新聞等で自治情勢を知る		
	6	介護保険制度のしくみ その2 要介護認定の流れ			ニュース・新聞等で自治情勢を知る		
	7	介護保険制度のしくみ その3 サービスの内容・種類			ニュース・新聞等で自治情勢を知る		
	8	認知症とは? そのケアについて			ニュース・新聞等で自治情勢を知る		
	9	ケアマネジメントの意義・価値について			ニュース・新聞等で自治情勢を知る		
	10	ケアプラン・ケアマネジメントについて			ニュース・新聞等で自治情勢を知る		
	11	地域包括ケアシステムについて			ニュース・新聞等で自治情勢を知る		
	12	権利擁護について			ニュース・新聞等で自治情勢を知る		
	13	高齢者虐待について			ニュース・新聞等で自治情勢を知る		
	14	命 とは			ニュース・新聞等で自治情勢を知る		
15	まとめ 振り返り						
評価方法	(1)授業の中でミニレポートや小テストを実施する。(2)グループワークを数回実施する。 (3)定期試験(筆記)を実施する。以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	○	◎				70%
	小テスト・レポート	◎	○				10%
	グループワーク・発表	◎	○		◎		20%
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	マナーⅡ						
科目名(英)							
単位数	2	時間数	30	担当者	小川智子		
実施年度	2019	実施時期	前期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	福祉心理学科 2年生						
授業概要	福祉従事者としての立ち居振る舞いについて考え、豊かな対人コミュニケーションの為の言葉遣いとマナーを身につける。実習先で誰からも好感・信頼感を持たれる実習生であるための、意識と知識の習得を目指す。社会人としての正しいマナー、慶弔の知識の習得を目指す。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					実習生の品格について理解できる	
	○					電話応対や訪問時の正しい言葉遣いとマナーについて理解できる	
	○					好感・信頼感を高める言語コミュニケーションについて理解し活用することが出来る	
	○					実習中の正しいマナーや報告、連絡、相談について理解し活用することが出来る	
			○			愛される福祉従事者としての立ち居振る舞いについて理解し実行することが出来る	
テキスト・教材 参考図書	プリント						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	授業オリエンテーション、好印象の身だしなみ					
	2	好印象の上級マナーとは			予定項目について自分の考えをまとめておく		
	3	実習生の品格とは(電話、訪問のポイント)			予定項目について自分の考えをまとめておく		
	4	電話の掛け方と正しい言葉遣い(実習先への電話)			配布されたプリントを読んでおく		
	5	実習先訪問のマナーと電話練習			配布されたプリントを読んでおく		
	6	面接中の正しい立ち居振る舞い			配布されたプリントを読んでおく		
	7	実習中の話し言葉と敬語①			配布されたプリントを読んでおく		
	8	お礼状の書き方と郵便の知識			配布されたプリントを読んでおく		
	9	実習中の話し言葉と敬語②			配布されたプリントを読んでおく		
	10	言葉の選び方・表現の方法①			配布されたプリントを読んでおく		
	11	言葉の選び方・表現の方法②			配布されたプリントを読んでおく		
	12	指示の受け方と報告、連絡、相談			配布されたプリントを読んでおく		
	13	目上の人とのコミュニケーション			配布されたプリントを読んでおく		
	14	来客応対(ご案内と茶菓の接待 他)			配布されたプリントを読んでおく		
15	冠婚葬祭のマナーと総まとめ			配布されたプリントを読んでおく			
評価方法	(1)授業の中でグループワークや発表を数回実施する。(2)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	◎				70%
	グループワーク・発表				◎		30%
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	社会保障 I						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	宮井浩志		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	福祉心理科 2年						
授業概要	社会福祉士が相談援助を行う際に必要な社会資源及び諸制度等は社会保障制度に付随しているものである。社会保障制度を活用は必須条件であり、幅広い分野の知識を獲得する必要がある。この科目では、全体像の把握だけでなく各分野の制度の成り立ち、変遷も学んでいく						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○					社会保障制度の概要について説明することができる	
	○					社会保障に影響を与える日本情勢及び環境要因を説明することができる	
テキスト・教材 参考図書							
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	社会保障の理解			テキストの該当ページを読んでおくこと		
	2	社会保険と社会扶助の理解			テキストの該当ページを読んでおくこと		
	3	社会保障の成立と福祉国家			テキストの該当ページを読んでおくこと		
	4	日本の社会保障の範囲			テキストの該当ページを読んでおくこと		
	5	日本の社会保障の変遷(へんせん)-戦前			テキストの該当ページを読んでおくこと		
	6	日本の社会保障の変遷(へんせん)-戦後			テキストの該当ページを読んでおくこと		
	7	高度経済成長期の社会保障			テキストの該当ページを読んでおくこと		
	8	安定成長期の社会保障改革			テキストの該当ページを読んでおくこと		
	9	バブル期以降の社会保障			テキストの該当ページを読んでおくこと		
	10	国民生活の変化に伴う社会保障への影響-家族の変化			テキストの該当ページを読んでおくこと		
	11	国民生活の変化に伴う社会保障への影響-ライフステージの変化			テキストの該当ページを読んでおくこと		
	12	社会保障給付費からみた日本の社会保障の大きさ			テキストの該当ページを読んでおくこと		
	13	社会保障給付費の推移			テキストの該当ページを読んでおくこと		
	14	社会保障の財源			テキストの該当ページを読んでおくこと		
15	全体のまとめ			テキストの該当ページを読んでおくこと			
評価方法	(3)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験		◎				90%
	発表・作品				◎		10%
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	障害者に対する支援と障害者自立支援制度					
科目名(英)						
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	原田 剛	
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目	○	
対象学科・学年	福祉心理学科2年					
授業概要	障害について考え、障害者がどのようなサービスや制度を必要としているのかを学ぶ。障害を理解し、制度を理解することの重要性を学び現場に必要な知識を身につける。 ①障害者の生活について理解する ②法律、制度等を理解する。 ③実際の支援について学ぶ					
授業形式	講義:	○	演習:	△	実習:	
					実技:	
					※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標
	○	○				障害者福祉に関する法律制度等の概要を理解する。
	○	○				福祉専門職(社会福祉士等)の役割や実際の業務等を理解する。
				○		課題発表、グループワーク等を行い、障がいのある方の支援について理解を深める。
テキスト・教材 参考図書	<ul style="list-style-type: none"> <li>中央法規出版:障害者に対する支援と障害者自立支援制度</li> <li>ミネルヴァ書房:よくわかる障害者福祉</li> </ul>					
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示
	1	障害者を取り巻く社会情勢				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと
	2	障害者の生活実態				レポート課題について調べる
	3	障害について考える・レポート課題発表				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと
	4	障害にかかわる法体系				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと
	5	障害にかかわる法体系				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと
	6	障害にかかわる法体系				レポート課題について調べる
	7	法律、制度等に関するレポート課題発表				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと
	8	障害者自立支援制度①(障害者総合支援法)				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと
	9	障害者自立支援制度②(障害者総合支援法)				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと
	10	組織機関の役割				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと
	11	専門職の役割と実際				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと
	12	障害者にかかわる専門職の価値・倫理				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと
	13	多職種連携・ネットワーキング				レポート課題について調べる
	14	障害者支援の現状と課題についてレポート課題発表				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと
15	障害者支援における事例検討とサービス利用について/定期試験対策				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
評価方法	①授業の中で小テストを4回実施。 ②レポート課題を3回(内容と発表で評価を行う) ③授業中に実施する小テストとレポート課題(提出・発表) 定期正試験で総合的に評価する。					
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他
	定期試験		◎			
	小テスト		◎			
	課題レポート				◎	
	発表				◎	
評価割合						
50%						
30%						
10%						
10%						
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。					

科目名	精神疾患とその治療 I						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	東中園聡		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	福祉心理学科2年						
授業概要	精神疾患の特徴と精神医療の実際、コメディカルスタッフとの連携等について学び、精神医療及び精神保健福祉に求められる役割について理解を深める。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○				代表的な精神疾患について特徴や症状について理解することができる	
	○	○				精神医療機関の治療構造及び専門病棟、ケアについて理解することができる	
	○	○				精神医療と精神保健福祉士との連携の具体的な内容について理解することができる	
	○	○				精神保健の視点から見た家族のアプローチについて方法及び対処を理解することができる	
テキスト・教材 参考図書	精神疾患とその治療(中央法規出版)						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	精神疾患について(概説)				テキストの該当ページを読んでおくこと	
	2	神経症性障害①				テキストの該当ページを読んでおくこと	
	3	神経症性障害②				テキストの該当ページを読んでおくこと	
	4	ストレス関連障害				テキストの該当ページを読んでおくこと	
	5	エディプス・コンプレックス				テキストの該当ページを読んでおくこと	
	6	パーソナリティ障害				テキストの該当ページを読んでおくこと	
	7	生理的障害				テキストの該当ページを読んでおくこと	
	8	うつ病				テキストの該当ページを読んでおくこと	
	9	双極性障害				テキストの該当ページを読んでおくこと	
	10	統合失調症①				テキストの該当ページを読んでおくこと	
	11	統合失調症②				テキストの該当ページを読んでおくこと	
	12	薬物療法				テキストの該当ページを読んでおくこと	
	13	心理療法				テキストの該当ページを読んでおくこと	
	14	社会療法				テキストの該当ページを読んでおくこと	
	15	フランクルの医学的精神指導				テキストの該当ページを読んでおくこと	
評価方法		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	○	○				100%
履修上の注意	出席が2/3に満たない場合は科目履修することができない。						



科目名	精神保健の課題と支援 I										
科目名(英)	Challenges and support of mental health										
単位数	2	時間数	15	担当者	宗岡 誠						
実施年度	2019	実施時期	前期	実務家教員 担当科目							
対象学科・学年	福祉心理学科 2年										
授業概要	21世紀に入り、生活環境の変化が生じてきており、心身共に健康を維持し、増進していくかという課題がある。メンタルヘルスの重要性は、現在、誰もがしることとなり、うつ病と自殺、ストレス関連の心身症、アルコール依存症、薬物依存症、少子高齢化や、認知症などに対する、国の施策がそれを象徴している。また、児童虐待や、いじめ、犯罪被害者の心の傷やその支援者に生じるストレスへの援助、セクシャル・マイノリティ(LGBT)への理解や支援など、様々な課題がある。伝統や習慣、価値観の違いなど、地域や個人で様々な変化があり、そのことによるストレスや課題も生じている。テキストには、従来の精神疾患名(ICD-10)、DSM-5の疾患名も付記されている。テキストを熟読し、精神保健的な視点と最新の情報と知識をみにつける。										
授業形式	講義:	<input type="radio"/>	演習:		実習:		実技:		※ 主たる方法: <input type="radio"/>	その他: <input type="triangle"/>	
学習目標 (到達目標)	言語情報	<input type="radio"/>	知的技能		運動技能		態度・意欲		目標		
							<input type="triangle"/>	精神保健の基本的概念を学び、他者に説明が行える。			
		<input type="radio"/>						精神保健の歴史と現在の状況について理解する。			
		<input type="radio"/>						精神保健を理解する上での、ライフサイクルの課題と危機を理解する。			
		<input type="radio"/>						精神保健の各課題の現状とその基本的考えかたを理解する。			
					<input type="radio"/>			精神保健において支援を行う上での基本的マナーを理解し自己向上を図る			
テキスト・教材 参考図書											
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示				
	1	第1章 精神保健の概要と課題					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと。DVD、PPTを使用				
	2	第1章 精神保健の概要と課題					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと。PPTを使用				
	3	第2章 精神の健康とその要因					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと。PPTを使用				
	4	第2章 精神の健康とその要因					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと。PPTを使用				
	5	第2章 精神の健康とその要因					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと。PPTを使用				
	6	第2章 精神の健康とその要因					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと。PPTを使用				
	7	第3章 精神への健康への関与とその支援					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと。PPTを使用				
	8	第3章 精神への健康への関与とその支援					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと。PPTを使用				
	9	第4章 精神保健の視点からみた家族の課題とアプローチ					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと。PPTを使用				
	10	第4章 精神保健の視点からみた家族の課題とアプローチ					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと。PPTを使用				
	11	第4章 精神保健の視点からみた家族の課題とアプローチ					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと。PPTを使用				
	12	第5章 精神保健の視点から見た学校教育の課題とアプローチ					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと。PPTを使用				
	13	第5章 精神保健の視点から見た学校教育の課題とアプローチ					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと。PPTを使用				
	14	第5章 精神保健の視点から見た学校教育の課題とアプローチ					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと。PPTを使用				
15	第1章から第5章を振り返り総括					配布プリントを参照。					
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。										
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合				
	定期試験	◎	◎				100%				
	小テスト										
	宿題・レポート										
	発表・作品										
履修上の注意											

科目名	精神保健福祉に関する制度とサービス I								
科目名(英)									
単位数	2		時間数	15		担当者	中山かおり		
実施年度	2019		実施時期	前期		実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	福祉心理学科2年								
授業概要	精神保健福祉士は、専門職として価値を基盤に捉え知識と技術を駆使した支援が求められる。授業では、「知識」として制度とサービスを学び、精神障害者の社会的復権のために活用して、相談援助を展開できるようにする。また、歴史的な変化の中で、制度とサービスがどのように変遷したのかを学ぶ。								
授業形式	講義:	○	演習:		実習:		実技:		※ 主たる方法:○ その他:△
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標			
	○			△		精神障害者の相談援助活動と法(精神保健福祉法)との関わりについて関心を持ち、理解することができる。			
	○			△		精神障害者の支援に関連する制度及び福祉サービスの知識と支援内容について把握し、利用者の現状や利用方法等について理解することができる。			
	○					精神障害者の支援において係る施設・団体・関連機関等について理解することができる。			
テキスト・教材 参考図書	1. 新・精神保健福祉士養成講座「精神保健福祉に関する制度とサービス」中央法規 2. 社会福祉小六法 ミネルヴァ書房								
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示			
	1	オリエンテーション 授業の進め方や概要について説明				教材の準備			
	2	精神保健福祉法の成立まで(1)				テキストの該当ページを読んでおくこと			
	3	精神保健福祉法の成立まで(2)				テキストの該当ページを読んでおくこと			
	4	精神保健福祉法の成立まで(3)				レポート			
	5	精神保健福祉法(1) 法の意義、目的、精神障害者の定義				テキストの該当ページを読んでおくこと			
	6	精神保健福祉法(2) 入院形態について1				テキストの該当ページを読んでおくこと			
	7	精神保健福祉法(3) 入院形態について2				テキストの該当ページを読んでおくこと			
	8	精神保健福祉法(4) 入院形態について3				テキストの該当ページを読んでおくこと			
	9	精神保健福祉法(5) 入院に係る届出について				テキストの該当ページを読んでおくこと			
	10	精神保健福祉法(6) 精神保健指定医				テキストの該当ページを読んでおくこと			
	11	精神保健福祉法(7) 精神医療審査会				テキストの該当ページを読んでおくこと			
	12	精神保健福祉法(8) 入院患者の権利				テキストの該当ページを読んでおくこと			
	13	精神保健福祉法(9) 精神保健福祉手帳				テキストの該当ページを読んでおくこと			
	14	精神保健福祉法(10) 精神保健福祉士の役割				テキストの該当ページを読んでおくこと			
15	前期 総括				テキストの該当ページを読んでおくこと				
評価方法	(1)授業の中で小テストを実施する。(2)宿題・レポートを実施する。(3)定期試験(筆記)を実施する。以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。								
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合		
	定期試験	◎					80%		
	小テスト	◎					10%		
	宿題・レポート				◎		10%		
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。 精神保健福祉領域に関する様々な情報に興味を持つことが必要。精神障害者の置かれている状況や実際の法律・制度について、歴史的な背景を含め理解することができるよう、授業に積極的に参加すること。								

科目名	精神保健福祉の理論と相談援助の展開 I						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	30	担当者	廣田 悦子		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	福祉心理学科 2年						
授業概要	1、精神医療の特性(精神医療の歴史・動向や精神科病院の特性の理解を含む)と精神障害者に対する支援の基本的考え方について理解する。2、精神科リハビリテーションの概念と構成およびチーム医療一員としての精神保健福祉士の役割について理解する。3、精神科リハビリテーションのプロセスと精神保健福祉士が行うリハビリテーション(精神化専門療法を含む)の知識と技術および活用の方法について理解する。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					1、精神医療の特性(精神医療の歴史・動向や精神科病院の特性の理解を含む)と精神障害者に対する支援の基本的考え方について理解する。	
	○					2、精神科リハビリテーションの概念と構成およびチーム医療一員としての精神保健福祉士の役割について理解する。	
	○					3、精神科リハビリテーションのプロセスと精神保健福祉士が行うリハビリテーション(精神化専門療法を含む)の知識と技術および活用の方法について理解する。	
テキスト・教材 参考図書	精神保健福祉の理論と相談援助の展開 I (中央法規 第4巻)						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	オリエンテーション			テキストの該当ページを読んでおくこと		
	2	・わが国の精神保健医療福祉の歴史と動向			テキストの該当ページを読んでおくこと		
	3	・諸外国の精神保健医療福祉制度の変遷			テキストの該当ページを読んでおくこと		
	4	・精神保健福祉士における活動の歴史			テキストの該当ページを読んでおくこと		
	5	・精神障害者支援の理念			テキストの該当ページを読んでおくこと		
	6	・精神保健医療福祉領域における支援対象			テキストの該当ページを読んでおくこと		
	7	・精神障害者の人権			テキストの該当ページを読んでおくこと		
	8	・精神科リハビリテーションの概念			テキストの該当ページを読んでおくこと		
	9	・精神科リハビリテーションの理念			テキストの該当ページを読んでおくこと		
	10	・意義と基本原則			テキストの該当ページを読んでおくこと		
	11	・精神科リハビリテーションの構成と展開			テキストの該当ページを読んでおくこと		
	12	・リハビリテーションのプロセス			テキストの該当ページを読んでおくこと		
	13	・アプローチの方法			テキストの該当ページを読んでおくこと		
	14	・疾病の経過、ライフサイクルと精神科リハビリテーション			テキストの該当ページを読んでおくこと		
15	前期振り返り						
評価方法	① 出席率(国家試験受験に基づく法定授業なので出席は10回以上であること)						
	② レポート(指示された日時までに提出) ③ 態度(スマホなどで遊ばない。他教科の宿題をしない)						
	以上を下記の観点・割合で評価する。成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎					80%
	宿題・レポート	◎					10%
授業態度・参加度				◎		10%	
履修上の注意	1、国家試験に必要な科目であるため、出席は10回以上である。 2、授業中にスマホ等を机の上に置かない、触らない。授業に必要な場合は教員が指示する。						

科目名	教育カウンセリング論Ⅱ						
科目名(英)							
単位数	2	時間数	30	担当者	富沢理恵		
実施年度	2019年	実施時期	前期	実務家教員 担当科目			
対象学科・学年	福祉心理学科2年						
授業概要	<p>ここ数十年で、情報化社会は発達期から成熟期を迎えつつあり、「SNSを通してのコミュニケーション」が「生身でのコミュニケーション」を凌駕しつつある。「合理的で便利」な反面、「生身の人間としてのつながり」が希薄になってきていることは否めない。そのような時代背景とともに、「心理カウンセリング」の必要性は高まってきているが近年、何か問題が起こってから専門家に援助を求めるより、問題が起こらないように普段から「仲間同士」で援助しあうことのほうが効果的であるという考えが浸透してきている。「私は助けるひと、あなたは助けられひと」といったプロ意識のカウンセリングではなく、「助けたり、助けられたり」のカウンセリングである「ピアヘルパー」を学ぶことで、「仲間同士の助け合い」の意義とそのスキルをワークショップを中心に進めていく。</p>						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○		○		ピアヘルピング技法の「自己開示」を理解し日常で活用することができる。	
	○	○		○		ピアヘルピング技法の「リレーション」を理解し日常で活用することができる。	
	○	○		○		ピアヘルピング技法の「言語的技法」を理解し日常で活用することができる。	
	○	○		○		ピアヘルピング技法の「非言語的技法」を理解し日常で活用することができる。	
テキスト・教材 参考図書	講師作成ハンドアウト						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	・オリエンテーション(・ピアヘルパーⅠの振り返り・ピアヘルパーⅡの概要)			テキストの該当箇所をよく読んでおくこと		
	2	授業内の傾聴訓練で「自分のこと」を語るできるよう、ワークを通して「自分とは」を自分自身で知る			テキストの該当箇所をよく読んでおくこと		
	3	「自分を知る」①のグループシェアリング&全体シェアリング			テキストの該当箇所をよく読んでおくこと		
	4	・ピアヘルピングの言語的技法とは「受容」「繰り返し」「明確化」とは			テキストの該当箇所をよく読んでおくこと		
	5	・「支持」「質問」「」とは			テキストの該当箇所をよく読んでおくこと		
	6	・技法を用いてのロールプレイング・グループシェアリング・全体シェアリング			テキストの該当箇所をよく読んでおくこと		
	7	・ピアヘルピングの非言語的技法とは「視線」「表情」「ジェスチャー」「身体接触」「声の質量」			テキストの該当箇所をよく読んでおくこと		
	8	・ピアヘルピングの非言語的技法とは「服装」「座り方」「時間厳守」「歩き方」「言葉遣い」「挨拶」			テキストの該当箇所をよく読んでおくこと		
	9	・技法を用いてのロールプレイング・グループシェアリング・全体シェアリング			テキストの該当箇所をよく読んでおくこと		
	10	・技法を用いてのロールプレイング・グループシェアリング・全体シェアリング			テキストの該当箇所をよく読んでおくこと		
	11	・面接の切り上げ方・私的感情・話が進展しないとき・抵抗・沈黙			テキストの該当箇所をよく読んでおくこと		
	12	・リファーマー・ケースワーク・コンサルテーション・ピアスーパージョン・具申・個別ヘルピング			テキストの該当箇所をよく読んでおくこと		
	13	・なおうそうとするな、わかろうとせよ・ことばじりをつかまえるな、感情をつかめ・行動だけを見るな、ビリーフをつかめ			テキストの該当箇所をよく読んでおくこと		
	14	スキルを向上させる方法・さらなるスキルアップをはかる			テキストの該当箇所をよく読んでおくこと		
15	・ピアヘルピング技法の総復習・総合ロールプレイング			テキストの該当箇所をよく読んでおくこと			
評価方法		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	○					70%
	発表				○		30%
履修上の注意	2/3以上の出席がない場合は定期試験(科目履修認定)を受験することができません。						

科目名	スクールソーシャルワーク論						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	笠木 順一		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	福祉心理学科 2年						
授業概要	不登校や児童虐待などの問題に対し、学校現場において福祉的観点から支援を行うのがスクールソーシャルワークである。スクールソーシャルでは基本的な相談援助技術に加え、教職員や各関係機関との連携した支援が重要である。この授業ではスクールソーシャルワークの基礎と学校現場の理解を目指す。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○					児童生徒が抱える問題について学び、その内容を説明することができる。	
		○				児童生徒が抱える様々な問題のそれぞれの原因や背景について説明することができる。	
		○				問題種別ごとに連携すべき関係機関を説明することができる	
				○		新聞やニュース等の報道に関心を持ち、授業に関連する社会動向を理解することができる。	
テキスト・教材 参考図書	ミネルヴァ書房 「よくわかるスクールソーシャルワーク」						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	オリエンテーション スクールソーシャルワークとは			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	2	スクールソーシャルワーカーの現状			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	3	なぜスクールソーシャルワークが必要なのか			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	4	スクールソーシャルワークの歴史			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	5	学校教育の特徴①			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	6	学校教育の特徴②			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	7	教育(学校)が連携する機関とその機能①			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	8	教育(学校)が連携する機関とその機能②(関係機関訪問)			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	9	教育(学校)が連携する機関とその機能③(関係機関訪問)			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	10	スクールソーシャルワークの基礎理論①			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	11	スクールソーシャルワークの基礎理論②			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	12	スクールソーシャルワーク現場訪問(市教委?)			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	13	スクールソーシャルワーク現場訪問(市教委?)			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	14	スクールソーシャルワークの展開過程①			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
15	スクールソーシャルワークの展開過程②			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと			
評価方法	(1)宿題・レポートを数回実施する (2)定期試験(筆記)を実施する 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	○		○		60%
	小テスト						
	宿題・レポート	○	◎		○		40%
	発表・作品						
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	精神保健福祉相談援助の基盤Ⅱ(専門)					
科目名(英)						
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	池田 将樹	
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目	○	
対象学科・学年	福祉心理学科2年					
授業概要	精神保健福祉士の役割は、特に多職種との連動が必要になる精神科領域では、利用者が生活を送る上で欠かせない存在である。利用者が病気や障害特性を抱えながらも「本人らしい当たり前の生活」を目指していくために、精神保健福祉士は基本的な権利擁護の考え方や知識を身につける必要がある。この授業では、利用者を支援するうえで専門的な知識習得を目指す。					
授業形式	講義:	○	演習:	○	実習:	
				実技:		※ 主たる方法:○ その他:△
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	目標	
	○				相談援助をの基本となる権利擁護について学び、権利侵害が起こる原因を説明することができる。	
		○			権利擁護の考え方を知ったうえで、多職種との連携・協力の重要性を説明することができる。	
		○			権利擁護に関連した諸制度を3つ以上説明することができる。	
		○			利用者との普段の関わりの中から、丁寧な意思決定支援を意識することができる。	
			○		アセスメントの重要性について考え、利用者の変化に気づく観察の視点へと応用することができる。	
テキスト・教材 参考図書	・中央法規出版 新・精神保健福祉士養成講座 精神保健福祉相談援助の基盤(基礎・専門)					
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示	
	1	精神保健福祉分野における相談援助の体系-相談援助活動の対象①			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	2	精神保健福祉分野における相談援助の体系-相談援助活動の対象②			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	3	精神保健福祉分野における相談援助の体系-相談援助活動の目的と意義			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	4	精神保健福祉分野における相談援助の体系-相談援助活動の現状と今後の展開			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	5	精神保健福祉分野における専門職の概念と範囲-専門職の概念			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	6	精神保健福祉分野における専門職の概念と範囲-専門職の概念とその業務			授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと	
	7	精神障害者の相談援助における権利擁護の意義とその範囲-権利擁護の概念と範囲①			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	8	精神障害者の相談援助における権利擁護の意義とその範囲-権利擁護の概念と範囲②			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	9	精神障害者の相談援助における権利擁護の意義とその範囲-権利擁護の概念と範囲③			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	10	精神障害者の相談援助における権利擁護の意義とその範囲-精神障害者の権利擁護と精神保健福祉士の役割			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	11	精神障害者の相談援助における権利擁護の意義とその範囲-専門職倫理と倫理的ジレンマ			授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと	
	12	精神保健福祉活動における総合的・包括的な援助と多職種連携-援助を支える理論			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	13	精神保健福祉活動における総合的・包括的な援助と多職種連携-援助の機能と概要			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	14	精神保健福祉活動における総合的・包括的な援助と多職種連携-多職種連携・チームアプローチの意義と概要			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
15	精神保健福祉活動における総合的・包括的な援助と多職種連携-多職種連携における精神保健福祉士の役割			授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと		
評価方法	成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。					
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他
	定期試験	○	○			70%
	小テスト	○	○			20%
	出席				○	10%
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。					